

北郷町文化財調査報告書第5集

平成6年度埋蔵文化財調査概要

御駕籠建場跡

前田遺跡

山仮屋関所跡

1995. 3

北郷町教育委員会

北郷町文化財調査報告書第5集

平成6年度埋蔵文化財調査概要

御駕籠建場跡

前田遺跡

山仮屋関所跡

1995. 3

北郷町教育委員会

序

北郷町は県南部に位置し、縄文時代から現代までの人々の営みの痕跡である遺跡が多く存在しています。

平成6年度の発掘調査は、埋蔵文化財を緊急に保護する必要があるとの認識のもと、御駕籠建場跡・前田遺跡・山仮屋関所跡の調査を実施しました。この調査により遺跡の確認はもとより多数の資料を収集できましたことは今後の文化財保護と開発事業との調整を進める上で大きな成果であると思われます。

今後とも、開発事業にあたっては、関係機関などと十分な協議をされることをお願いいたします。

平成6年度埋蔵文化財発掘調査事業にあたり、調査指導をお願いいたしました県教育委員会並びにご協力をいただきました発掘調査作業員・関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。

本報告書が文化財の研究および文化財保護のための資料として役立つことを切望いたしますとともに本町の文化行政に対しなお一層のご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成7年3月

北郷町教育委員会
教育長 徳地青慈

例 言

1. 本書は、北郷町教育委員会が平成6年度に文化庁・宮崎県教育委員会の補助をえて実施した平成6年度埋蔵文化財調査概要報告書である。
2. 本書の執筆・製図・写真撮影等は時元が行った。
3. 本書の編集については、時元が行った。
4. 出土した遺物については、北郷町教育委員会で保管している。

本文目次

第1章 はじめに	1
第2章 発掘調査の概要	2
第1節 御駕籠建場跡	2
第2節 前田遺跡	4
第3節 山仮屋関所跡	6
第3章 おわりに	11

挿図目次

第1図 御駕籠建場跡周辺位置図	2
第2図 前田遺跡周辺位置図	4
第3図 山仮屋関所跡周辺位置図	6
第4図 山仮屋関所跡平面図	9
第5図 山仮屋関所跡トレンチ配置図	10

図 版 目 次

図版 1	御駕籠建場跡	3
図版 2	前田遺跡	5
図版 3	山仮屋関所跡	7
図版 4	山仮屋関所跡	8

第1章 はじめに

北郷町内の遺跡の分布状況は、平成元年度の遺跡詳細分布調査（注1）で約50カ所が確認されている。その後、遺跡付近における開発行為が、年々増加している。

そのため、北郷町教育委員会では、遺跡の区域内で工事が予定された地区について、事前に分布調査を行い、必要と認める場合には試掘調査を実施している。

本年度は、御駕籠建場跡・前田遺跡・山仮屋関所跡の3カ所の発掘調査を実施した。調査の方法は、トレンチによる確認調査を行った。遺跡の所在地と調査期間は、下記のとおりである。

遺 跡 名	所 在 地	調 査 期 間
御駕籠建場跡	北郷町大字郷之原字花立	平成7年3月1日から 平成7年3月3日まで
前田遺跡	北郷町大字北河内8175番地	平成7年3月6日から 平成7年3月10日まで
山仮屋関所跡	北郷町大字北河内字山仮屋	平成7年3月14日から 平成7年3月22日まで

第2章 発掘調査の概要

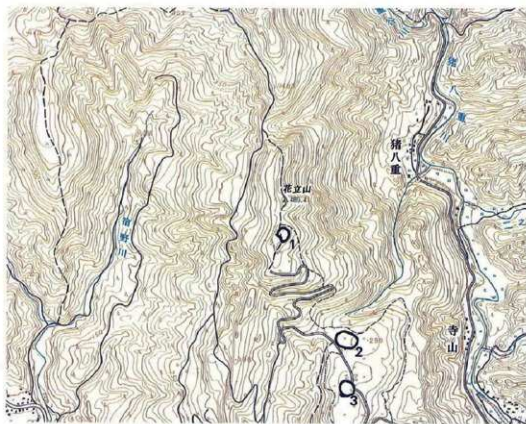
第1節 御駕籠建場跡

1. 調査に至る経緯

新山村振興農林漁業対策事業に伴い調査を実施した。遺跡は、花立山からのびる屋根の上に存在する。この遺跡は、近世の厭肥街道（註2）沿いの付近にあり、最近まで石で囲まれた御駕籠建場跡が存在した。

2. 調査の方法と概要

御駕籠建場跡があったと考えられる場所に、1.5 m×9 mのトレンチを設定して調査を行った。調査の結果、御駕籠建場跡の痕跡は確認できなかった。



第1図 御駕籠建場跡周辺位置図（1：25,000）

1. 御駕籠建場跡 2. 大原遺跡 3. 笹の窪遺跡

図版 1



御駕籠建場跡トレンチ



御駕籠建場跡付近の糞肥街道

第2節 前田遺跡

1. 調査に至る経緯

農林漁業振興事業（宿野地区）に伴い調査を実施した。調査は、農道の予定のところを調査した。

2. 調査の方法と概要

調査の方法は、第1・2トレンチを設定した。調査規格は、0.6m×8mの大ききで調査をした。

基本層序は、第I層（表土）、第II層（黄褐色砂質土）アカホヤ二次堆積土、第III層（暗褐色粘質土）、第IV層（暗黄色粘質土）である。

出土遺物は、第II層から縄文時代後期の土器片が出土した。



第2図 前田遺跡周辺位置図（1：25,000）

1. 前田遺跡
2. 宮の後遺跡
3. 宮の前遺跡
4. 牧野遺跡
5. 池之上遺跡
6. 昼野上遺跡
7. 柿ヶ迫遺跡
8. 昼野遺跡
9. 前山岩跡
10. 桑津留遺跡
11. 中須賀遺跡
12. 鍛代田遺跡
13. 竹頭遺跡
14. 合原遺跡
15. 大塚遺跡

図版 2



前田遺跡第1・2トレンチ



前田遺跡第1トレンチ遺物出土状況

第3節 山仮屋関所跡

1. 調査に至る経緯

山仮屋関所跡の範囲確認調査を実施した。本年度は、国有林部分の調査を実施した。

2. 調査の方法と概要

調査の方法は、第1～6トレンチを設定して行った。

第1トレンチでは、調査地点の東側で礎石が出土した。第2トレンチでは、2ヶ所の礎石が出土した。また、礎石の基礎部分と考えられる集石が認められた。第4トレンチでは、入口部分と考えられる地点で、階段の跡が検出された。第5トレンチは、道の部分と考えられ、丸石が敷き詰められた。

出土遺物は、各トレンチから、近世陶磁器が出土した。第2トレンチから小刀が出土した。第3トレンチから貨幣が出土した。



第3図 山仮屋関所跡周辺位置図(1:25,000)

図版 3



山仮屋関所跡第2トレンチ



山仮屋関所跡第4トレンチ

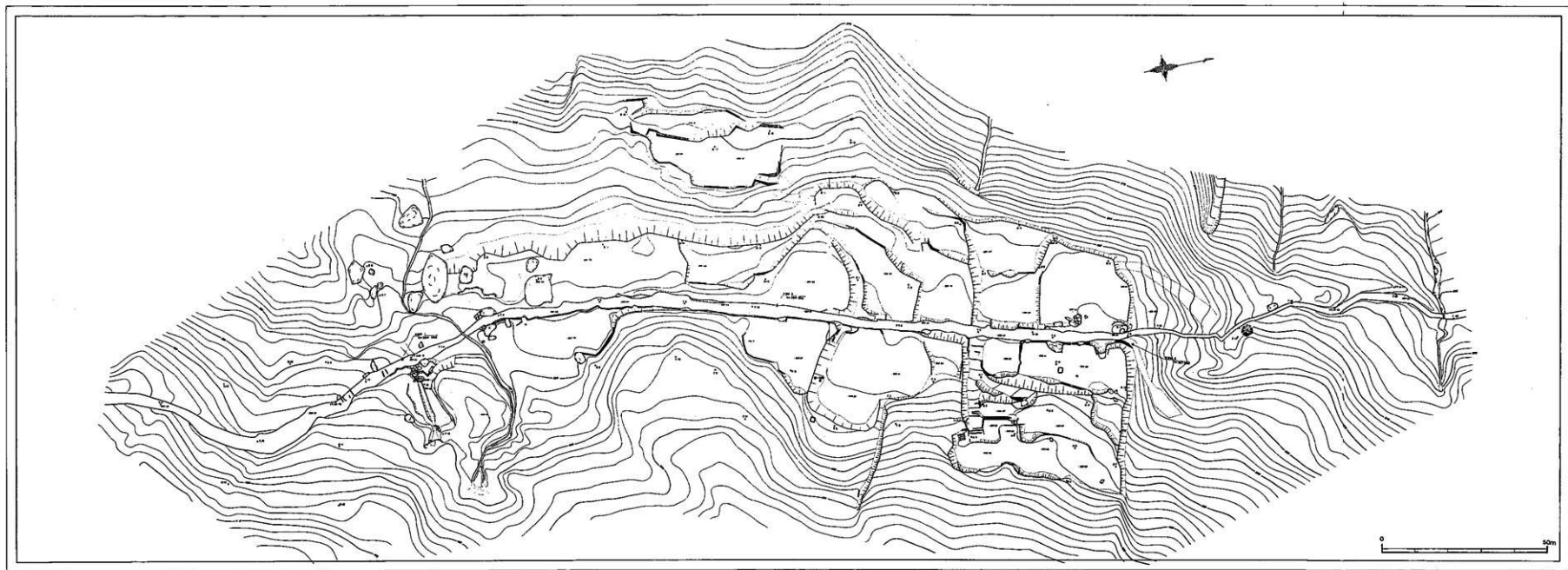
図版 4



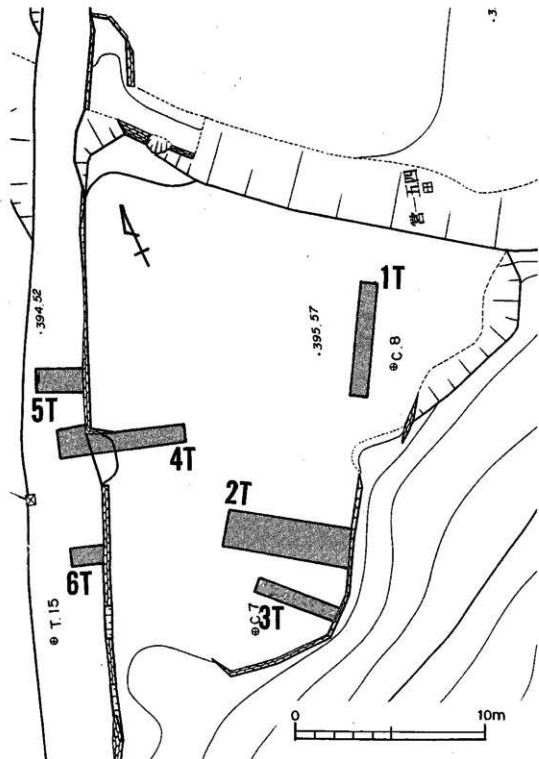
山仮屋関所跡第2トレンチ遺物出土状況



山仮屋関所跡調査付近礎石検出状況



第4図 山坂屋敷所跡平面図(1:1,000) アミ目は調査地点



第5図 山飯屋関所跡トレンチ配置図 (1 : 200)

第3章 おわりに

本年度の調査は、御駕籠建場跡・前田遺跡・山仮屋関所跡の3ヶ所の確認調査を実施した。

調査の結果、前田遺跡では、縄文時代後期の遺物が出土した。山仮屋関所跡では、建物跡の礎石を検出した。また、街道の整地状況の確認ができた。

山仮屋関所跡は、近世交通史を考える上で貴重な遺跡と考えられる。今後も、詳細な調査が必要とされる。

註

(1) 北郷町教育委員会「北郷町遺跡詳細分布調査報告書」

『北郷町文化財調査報告』 1990

(2) 宮崎県教育委員会「馱肥街道」『宮崎県歴史の道調査報告書』 1978

報 告 書 抄 録

書 名	平成6年度発掘調査概要
副 書 名	北郷町文化財調査報告書第5集
遺 跡 名	<small>御駕籠建場跡</small> ・ <small>前田遺跡</small> ・ <small>山仮屋関所跡</small>
所 在 地	南那珂郡北郷町大字郷之原字花立、大字北河内8175番地 大字北河内字山仮屋
時 代	縄文時代後期 近世
編 集 者 名	時 元 省 二
執 筆 者	時 元 省 二
発 行 所	北郷町教育委員会
所 在 地	〒889-24 宮崎県南那珂郡北郷町大字郷之原乙1477
発 行 年 月 日	1995年3月31日

平成6年度埋蔵文化財調査概要報告書

平成7年3月31日

編 集 ・ 発 行

宮崎県北郷町教育委員会

南那珂郡北郷町大字郷之原乙1477

印 刷

有限会社ヤノオフセット

